

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172500274		
法人名	有限会社 地人協会		
事業所名	グループホーム ポランの家		
所在地	余市郡余市町大川町8丁目11 (電話) 0135-22-1577		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年7月2日(月)	評価確定日	平成19年7月23日(月)

## 【情報提供票より】(19年6月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年4月25日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	21人	常勤15人, 非常勤6人, 常勤換算16.2人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建て	1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	35,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	821円		

### (4) 利用者の概要(7月2日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	5	要介護2	6		
要介護3	5	要介護4	1		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 85歳	最低	73歳	最高	99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	余市協会病院、小嶋病院、林病院、仁木歯科クリニック
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ポランの家」は、高齢化による地域の生活課題を社会福祉の一資源としての使命を認識し、高い志で役割を果たしながら運営がされています。地人協会という法人名は、その土地でご苦労されてきた方たちとお互いに助け合って生きていこうという意味がこめられおり、地域密着型サービス導入以前より地域高齢福祉のあり方を打ち出し、実際に実践しながら現在に至っています。ホームで一番重要としている「尊厳性」や周辺症状の緩和について常にケアサービスの中で点検されおり、運営者、職員が一丸となり温かい心と眼差しで介護サービスに努力されています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価については、運営理念の明示をホームの見やすいところに、また2階ユニットにおいても掲示をして明示することが改善課題でしたが、すでに取り組みられ改善されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム長は、サービス評価を積極的に活用していこうと前向きな姿勢で臨み、評価の意義などを職員に伝えながら自己評価を行なっています。現在はホーム長が評価記述を担当し客観的に判断し実施していますが、全職員で十分な検討を行なうなど、いわゆるボトムアップの要素導入については、今後見直しを図っていくという状況でした。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、実際のケアサービスの意見交換のほかに、地域福祉における援助理念、事業計画や介護保険制度における運営上の変化、リスクマネジメントの方向性など必要とされる多様な課題について討議されています。特にケアサービスについては具体的なアイデアが出されるなど現場の取り組みに繋がりがつづきます。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談機関を作り、本人や家族からの指摘、苦情について真摯に受け止め、誠意をもって解決する体制が整えられ、苦情処理規定も判り易く書式化されています。重要事項説明書においても関係者への対応の方法が明示されており意見、苦情、不安については「ポランの家」の課題発見と資質向上に活かされるよう前向きに取り組んでいます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者と地域の方々、来訪者が気軽にティータイムや交流できるよう外にテーブルセットを置いて環境を整え、自然な形でお付き合いができるよう工夫しています。町内会の行事協力や地域の方々からの生鮮食材のおすそ分け、地元ボランティアの協力を得ながら利用者の豊かな文化創造を創るなど、日常生活において地域との交流に努めているのが伺われます。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	時代を生きてこられた認知症を有する高齢者の方たちが、住み慣れた地域の中で安心してその人らしい生活を送ることができるよう、暮らしを支える事業所理念を策定しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時や毎日のミーティングの中で理念を掘り下げ、具体的支援について意見統一や話し合いを行ない共有化を図り、実践に取り組んでいます。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、ホームは地域の一員として行事などの際に協力をしています。また、ホーム長が執筆する「地人協会通信」を地域へ発信したり、余市町認知症の人を支える家族の会に団体加入をして地元の人々との交流に努めています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長は自己評価を通じた外部評価のあり方を尊重し意義を理解して職員に対し伝え話し合っています。また、自己評価や外部評価によってホーム運営のレベルアップや理念の適切な実践へと結び付けています。自己評価についてはホーム長自身が全ての項目にわたり評価をしておりますが、全職員での十分な検討、いわゆるボトムアップ方式には至っていませんでした。	○	前回の外部評価で指摘された改善事項は素早く着手し改善されています。自己評価については、全職員での検討がされ、ホーム長へ伝えていくボトムアップ方式の取り組みが検討されていますので今後期待します。

余市町 グループホームポランの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、幅広い立場の方々がメンバーとなり構成されており、ホームからの報告事項とともに、運営に関する率直な意見交換がされ、改善に向けた具体的な取り組みに繋がっています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの実情やケアサービスの取り組み状況を町担当者へ報告しながら、地域密着サービスとしての課題や余市町の社会福祉などについて意見交換や解決に向けて協働し連携を図っています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に発行されるホーム便り「ポランの家通信」に家族への通信欄を設けて利用者の健康状態や暮らしぶりなどをお知らせしています。健康状態に特別な変化がある場合にはホーム看護師から都度報告をしています。また、お預かりをした金銭の管理について毎月使途明細書により詳細に報告を行っており家族の安心感に繋がっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム長と職員は家族が訪問の際、家族との会話の中で要望や意見、不満などを伺うようにしています。年1回家族アンケートを実施して多様な意見を出していただき運営に反映させる取り組みを行なっています。苦情処理規定を設け、判りやすく説明を加えられるなど、相談苦情への真摯な対応が感じられます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設2年を経過しホーム長によるより良い労働環境の整備が進められており、職員の異動は少ない状況です。都合で退職の際には、利用者の心理的ダメージを防ぐことを重視した離職の方策が図られ、職員と利用者との馴染みの暮らしに影響が出ないよう配慮されています。		

余市町 グループホームポランの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら学ぶ仕組みの一つとして、職員の年齢バランスを取り、職員が有する人生経験などを職員間で共有し合いながら自己研鑽を深め、より良い支援に繋げるための体制を図っています。経験に応じた研修会へも積極的に参加して介護技術の向上に努めています。ホーム長は職員に対し「自己点検シート」を導入して自己反省や業務の振り返りに役立たせています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームは道内グループホーム協議会、余市町ケアマネージャー協議会に加盟して会議や研修会、学習会を通じて、同業者及び職員同士の交流を行ない、運営面の情報交換や職員の仲間作りに役立てています。ほかの事業所との体験交流では得られた情報を介護実践に活かされ、質の向上に励んでいます。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム利用を希望する場合、事業所見学や自宅を訪問する体制を整え、入居時は全員で安着祝いを行なうなど歓迎の意をお伝えしたり、ホームでの生活に安心感を持っていただけるよう職員はより傾聴、共感を心がけるなど、本人が利用を納得されるまで時間をかけて対応しています。ホームで暮らすという自己決定の場面作りを行なっています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と生活の技や生活文化などを教えてもらう関係性が構築されており、人生の先輩として得意分野で力を発揮していただくための場面設定に配慮と工夫をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望の表出が困難な場合には、表情や様子などで発信されるメッセージを察知しながら、コミュニケーションを図るなど、本人がどのように暮らしたいか、思いや希望、考えなどを把握するように努めています。また、家族からアンケート調査を実施するなど、意向の把握に取り組んでいます。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎日のミーティングからモニタリング、カンファレンスへと意見や気づきを連結させ、その人らしく暮らし続けるためのプラン作りをチームとして取り組んでいます。家族、医師からの意見も反映しながら、長期、短期的な期間での必要な支援を盛り込み安全で豊かな生活支援のための介護計画が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しのほか、本人の実情に応じた変更がされています。不安や抑うつ傾向など少しの精神的な予兆も見逃さず、予防的に対応していくためのプラン見直しが図られています。必要時には家族とケース会議を持ちサービスの提供状況や現状を確認して頂きながら検討しています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望や意向による外出支援や公用車での通院支援など、本人、家族の状況に応じた柔軟かつ最大限のサービスを地域に根を張りながら提供しています。		

余市町 グループホームポランの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居前からの掛りつけ医に受診できるよう支援しており、ホーム看護師が中心となり、医療機関と関係性を構築して適切な医療が受けられるように支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「ポランの家」における看取りの考え方を明確に指針として打ち出しています。看取り看護や介護に関する基本体制を整えており、実施する際には看取りに関する介護計画書を作成し、家族から同意を得ることとなっています。医療連携体制の中で医師、家族、ホームとの合意が形成され緩和ケアが実施されたケースも報告されています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権、権利擁護に関する考え方を職員に伝えるのみならず、書式化を図り徹底されています。利用者の尊厳性を重視した理念のもと、プライバシーの確保や誇りを傷つけることなく日常的に十分配慮を行ないながら支援をしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物や散歩、喫茶店でのティータイムなど、本人の状態や思いに配慮しながら希望にそって柔軟に対応しています。基本的な1日の流れはありますが、その人らしい暮らしが送れるよう個性のある暮らしの支援を図っています。		

余市町 グループホームポランの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で作物を育て収穫したものや、漁師の方から魚をおすそ分けしてもらったりなど、新鮮な食材の活用や五感を通じて食事が楽しみになるような働きかけや工夫がされています。食事の準備から後片付けまでの一連の流れではできることを職員とともにこなしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中帯のほか夕食後の夜間帯に入浴できるような体制を作っており、本人の希望に応じて個別の支援を行なっています。拒否時における言葉かけや対応にも本人に合った工夫がみられ、気持ちよく入浴ができるよう努めています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作りや洗濯物たたみ、掃除、調理の下ごしらえ、献立のおしながきなど、本人の得意分野を活かして経験や知恵を発揮する場面をできるだけ多く作り出しています。一人ひとりに応じた気晴らしや、楽しみごとを把握して支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定例化した外出支援ではなく、日常的に本人が希望する場所へ目的を持ちながら出かけています。訪れた場所ではその地域の方々と触れ合う機会の場面作りもされ、社会との繋がりの中で支援を行なっています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの出入りは、職員の見守りの中で自由に行なっています。1階の玄関と事務室は隣接され玄関の出入りが確認でき、外出傾向の把握とともに、鍵をかけずに安全に過せるよう取り組んでいます。夜間帯は一般家庭と同様に玄関の施錠をしています。		

余市町 グループホームポランの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害を想定した実践的な訓練を消防署の協力のもと実施されています。防災規定の整備やホットライン化された非常通報装置の設置、非常食の備蓄など対策を強化しています。さらに地域との実践的な災害対策について協力を働きかけるための取り組みを図るなど検討が進められています。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに必要とされる栄養摂取量や水分量を把握して、嗜好を献立に取り入れながらバランスよく食事や水分の提供がされています。食事摂取量の記録のほか、医療面で水分管理が必要な場合は摂取管理表に記録をして確実性を高めています。食品のカロリー換算表を活用して支援が行われています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オープンキッチン仕様で食卓や居間へ広く繋がる造りになっており、利用者の使い易さや居場所作りに配慮された空間になっています。利用者と職員手作りの装飾品は季節感、生活感をかもし出し潤いが感じられ、五感への配慮もされています。建物全体がバリアフリーで、外玄関には手すり付きスロープが設置され安全性や状態に応じた支援ができるようになっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みの家具や生活用品などを暮らしのスタイルに合わせて揃えており、家族からのプレゼント品や思い出の写真、植物など思い思いにセッティングされています。作り付けの広い物入れは、衣類など生活用品の出し入れや全体が把握し易いように扉の代りにロールカーテンを付けています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。